

◦ 6月9日 (火) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 動物篇】

実篤を身近に感じてほしいよシリーズ、今週は「実篤と動物」にまつわるエピソードを紹介します。実篤は、犬や猫を飼い、水中の生き物も好きでした。

【#おうち時間で実篤を知ろう 91】

鯉が悠々と泳ぐのを見ている時の、自分の心の落ち着きが好きだという実篤。終の処(すみか)となった仙川の家の大きな池でも鯉を飼いました。人から貰うこともあり、一時期は400匹以上いたこともあるとか。

実篤は、手賀沼のある我孫子、小丸川のある新しき村、井之頭公園のある武蔵野や三鷹など、水があり、鯉が泳いでいる場所に住んできました。自宅の池で鯉を飼うことは、かねてからの願いでした。

〈資料情報〉

鯉にえさをやる

昭和36(1961)年



◦ 6月10日 (水) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 92】

実篤の愛蔵品の中には、鶏や木菟(みみずく)などのかたどった美術品や玩具が多くあり、画のモチーフにもなっています。明治18(1885)年に生まれた実篤は、酉年。自分の干支にあやかり、鳥にまつわるものを集めたのでしょう。

描かれた愛蔵品は、左から漢加彩鶏俑(かんかさいけいよう)、漢明器 鴟トビ尊(しきょうそん)、漢加彩鶏俑。いずれも記念館で所蔵しています。



〈資料情報〉

武者小路実篤「友情」

1970年 紙本墨画淡彩



## # おうち時間で実篤を知ろう >> 身近に感じる実篤 (4) 動物篇

◦ 6月11日 (木) 掲載

---

### 【#おうち時間で実篤を知ろう 93】

実篤は珍しい動物にも興味津々でした。三津 (みと・静岡県) の水族館でマンボウを見たときには「頭ばかりの痩せた、しわだらけの顔をしている不思議な魚」「真向きだとやせている」と驚きを綴っています。

スナメリを見た時には「ぬめっとした、いかにも海坊主」「亡霊の魂魄 (こんぱく) この世にとどまって出来上がったと言うようなへんな不気味な感じ」。面白がって観察していたことが伝わってきます。(武者小路実篤『牟礼随筆』1939年、大日本雄弁会講談社)。



◦ 6月12日 (金) 掲載

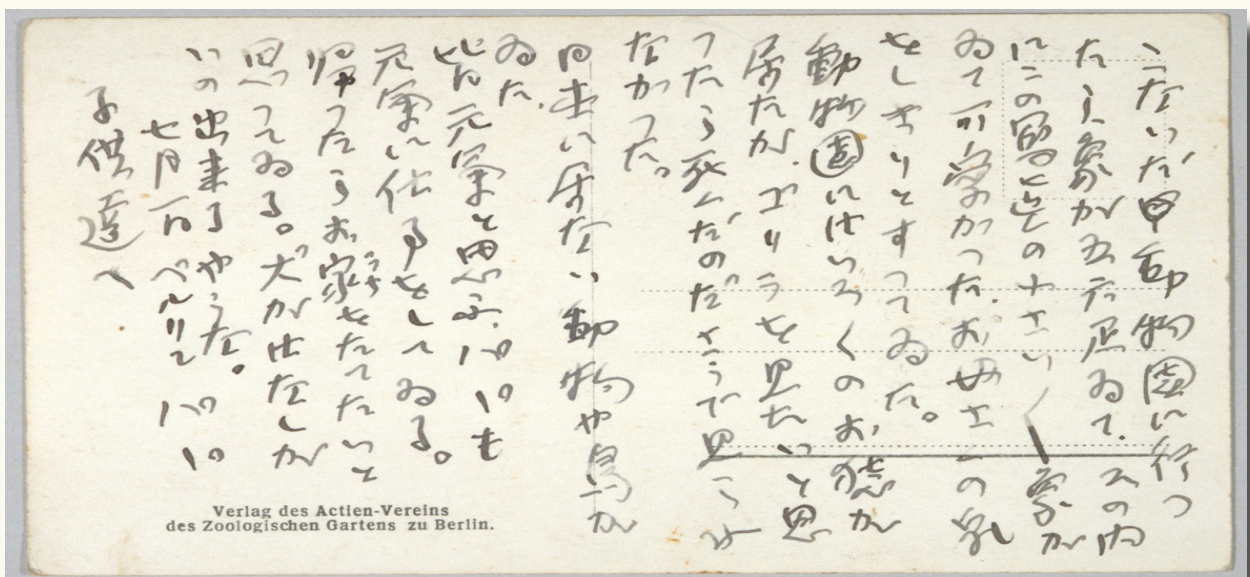
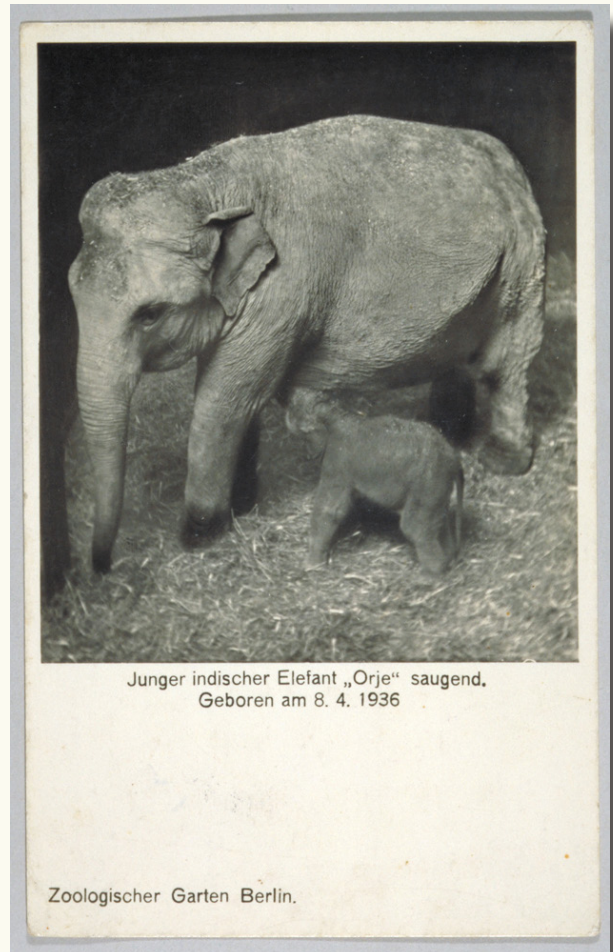
【#おうち時間で実篤を知ろう 94】

昭和11年に欧米を旅行した際には、各地で動物園に立ち寄り、日本で見られない動物に喜びました。ベルリンから娘達にあてた絵葉書には、動物園に「この写真の小さい小さい象がいて可愛かった」とあります。

動物園を見て何かに触発されたのでしょうか、最後には「帰ったらお家をたてたいと思っている。犬がはなしがいの出来るような。」と記しています。

〈資料情報〉

武者小路実篤より武者小路新子・妙子・辰子あて  
昭和11(1936)年7月1日



## # おうち時間で実篤を知ろう >> 身近に感じる実篤 (4) 動物篇

◦ 6月13日 (土) 掲載

### 【#おうち時間で実篤を知ろう 95】

犬をよく飼っていた実篤。斜面に建てられ、床が高くなっている旧実篤邸のこの空間 (写真1枚目) は、写真2枚目のようにぐると網が張られ、犬小屋となっていました。実篤公園にお越しの際は、実篤の愛犬を思い浮かべてみてくださいね。

愛犬の名前は、ディオ (フルネームはディオゲネス、古代ギリシアの哲学者より)、ゴス (高価で買えなかった磁器・呉須赤絵にちなむ)、ベチ (当時よく犬につけられた名前パスとポチから一文字ずつとる) など、由来も様々です。



〈資料情報〉

一枚目: 旧実篤邸

二枚目: 仙川の家で安子夫人・孫と 昭和48 (1973) 年



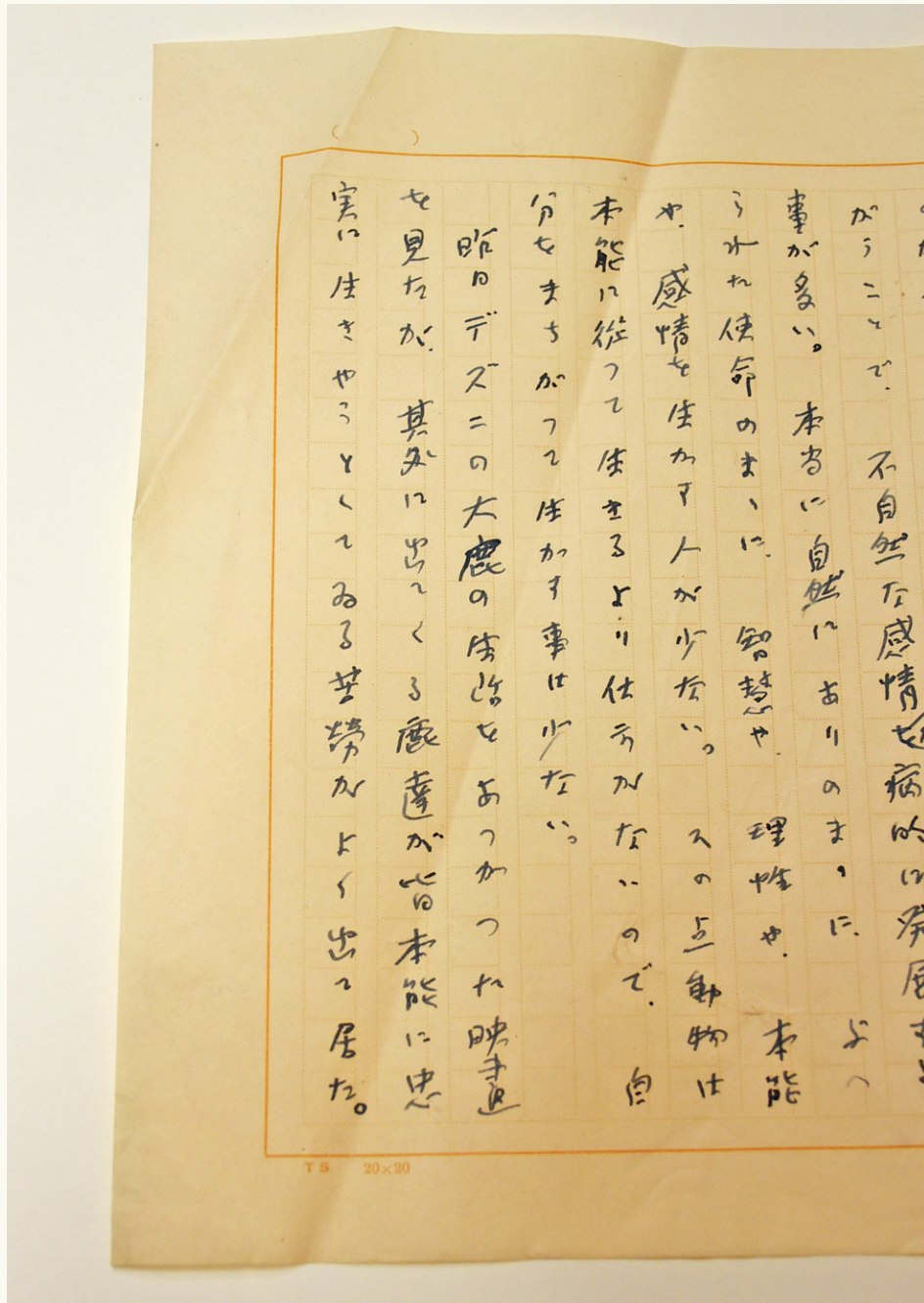
# おうち時間で実篤を知ろう >> 身近に感じる実篤 (4) 動物篇

◦ 6月14日 (日) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 96】

この草稿は、人間の智慧について書かれたもの。文中には「デズニの大鹿の生活をあつかった映画」を見たとあります。「デズニ」は、言わずもがな。映画はあの「バンビ」か、実写映画かもしれません。

雄鹿が喧嘩する場面が、とくに印象に残ったようです。本能だけを頼るより、本能を賢く外界の情勢に応じて生かす事ができるようにするのは進歩に違いない、と続きます。動物の生態を見て人間について考える、実篤らしい観点です。



〈資料情報〉

武者小路実篤 草稿

